



市保連 だより

2010
(7月)

[第398号]

平成22年7月1日発行
 社団法人 熊本市保育園連盟
 広報委員会
 発行責任者 重岡 啓一
 〒860-0806 熊本市花畑町3-1
 熊本市花畑別館3F
 TEL (096) 322-0096
 委員長 清永 ヤヨヒ
 委員 鬼塚 静波
 委員 建川 美徳
 委員 村上 惠逸
 委員 平川 裕季子
 委員 伊形 けい子
 委員 石井 福栄
 委員 石角 奈二郎



特別寄稿

心を育てることばの力

NPO法人子育て支援ワーカーズ ペペペらん 高野 和佳子

タンポポのわたげがまん丸になって、いつ風に乗ろうかとその瞬間を待っている光景はなんとも健気で美しい。♪わたげ わたげ 飛んでいけ 春になったら 花になれ♪というわらべうたが思わず口をつきます。けれど車で移動する毎日は子どもの道草を許しません。毎日歩きながら、様変わりする道端のタンポポを眺めることを許され、そこに添えられた言葉に恵まれた子どもはなんと幸せなことでしょう。「長くつしたのピッピ」の作者スウェーデンの国民的作家リンドグレーンは「子どもには自由と安心の保障をしなければならない」と言われたと後の講演録に記されています。子どもたちの生活には、思いっきり遊ぶ自由と、帰る家があるという安心が必要だということです。私は25年近く絵本と親しんできましたが、子どもたちが長い間読み継いできた絵本には、この自由と安心が保障された内容の絵本が多いのに驚きます。絵本を読み語る時、どんな絵本にするかは大変重要なことです。子ども達が質の高い絵本と出会う橋渡しになるのも大人の役目です。出版されて25年以上たつ古典の域に入った絵本と出会っていくと、だんだん絵本を見る目が育ってきます。そしてそれらの絵本の言葉を肉声に起したとき、生き生きと力強く子どもたちに伝わるのです。

合理化された生活は、子どもたちの言葉の環境も悪くしてしまいました。テレビやビデオ、ゲームから流れる無機質な言葉の洪水の中で、子ども達はしたら言葉と向き合えるのでしょうか。自分のために語られる言葉。目を見て

語ってくれる言葉。このような当たり前の言葉の受け方をして育つ子どもが減っているのは現実です。お母さんが授乳中にテレビやパソコンに目を注いでいれば、赤ちゃんはお母さんからの眼差しかけや言葉はもらえません。0才の時からすでに言葉の環境は悪くなっていくのです。昔はテレビもビデオもありませんでしたから、大人達は子守唄やわらべうたを唄ったり、言葉であやしたりして、自然に言葉との出会いをさせていたのです。自分に語られる言葉に恵まれて育つと、言葉に対する感性が培われ、人の話に注意をはらうようになります。つまり人の話が聞ける子どもになるのです。

最近、人の話が聞けない子どもが増えていると聞きます。小学校に上がっても先生の話が聞けない。先生が話していても、友達と喋る、席を立つなど。確かに問題ですが、子どもが悪いわけじゃないと思うのです。なぜなら、幼い頃からそのような訓練を受けていないからではないでしょうか。テレビやビデオは途中で席を立っても、誰かとお喋りしても怒りませんし、聞いていても聞いていなくてもOKなのです。そのように学習してしまえば、テレビも先生も同レベルになってもおかしくないでしょう。

乳幼児時期から絵本や昔話、わらべうたを通して語りかける言葉がいかに大切か、私達大人は心に刻む必要があると心から思います。





保育士会

ふれあいの中で

熊本すみれ保育園 保育士 松尾香織

保育の仕事について、10年が経ちました。本当に、あっという間の10年で、大変なことも多かったように思いますが、それ以上に楽しい日々を過ごすことができ、充実していたと思います。

今年、久しぶりに担任を持つことになり、新任の頃の事を思い出してしまいました。あの頃は、自分に余裕がなく、どうしていいのか戸惑うことも多く、子どもに振り回される日々でした。自分を表現することが苦手で、うまく伝わらないこともあり、一人一人とふれあう時間を持つと、帰りの挨拶をした後に、ぎゅっと抱きしめてみることにしました。

喜んで飛び込んでくる子、体が固まってしまいう子など、反応は様々です。しかし、毎日続けていると、照れたり、嫌がった子も、少しずつ体を預けるようになり、その時の様子で、子

ども達の気持ちが伝わってくるようになりました。

子どもたちとふれあう中で、たくさんのことに気づき、成長することができました。

今年は、3歳児の担任をしていますが、まだ言葉でうまく表せないところも多くみられます。子どもたちの気持ちをよく考えながら、少しでも笑顔を引き出せるように、日々の成長を見守り、私も一緒に成長していけたらと思います。

子どもたちから、日々もらう笑顔のエネルギーを、明日の活力に変えて、これからも楽しい毎日を送っていききたいと思います。



調理師会

「保育」と「食育」を通して

瑩光保育園 調理師 村本敬子

1) 何んでも食べれる子どもに成りました。2) 正しいお箸の持ち方出来ます。この2つを最終目標として保育と食育をしてきました。「三つ子の魂百まで」と幼少時の良い習慣。正しい食育は最も大事で不可欠の事です。子ども達は親の姿(食べ方、話し方、その他色々全部)や周りの大人の姿を見て育ちます。私達大人の大事な仕事と責任です。子どもを一人前の大人に育てる事は大変な仕事です。でも楽しみも倍増です。素晴らしい「日本人」である為に、日本古来からの行事を大切に、躰を是非身に付けさせたいものです。お箸の

国の日本人です。まず「正しいお箸の持ち方」を身に付けさせて下さい。そうすれば、フォーク、ナイフ、スプーンでのマナーも出来ると思います。それに「何んでも食べれる子どもに成りました」食



文化を通しての世界交流が盛んになるでしょう。(飢餓の意味も知る)日本の四季を通しての(色彩、器、茶道、マナー、行事)食文化をあなたのお子さんが国際人として日本の食文化を伝える一員として活躍する事を私達職員一同願っております。『食歴の豊かな人生であって欲しい。お箸の持ち方も一生のお付き合いです』以上の文は卒園児に贈る想い出集の中の給食室からのメッセージです。泣き顔泣き声心配顔でスタートを切った保育園生活。お菓子大好き偏食っ子が大勢の子どもの世界で大きく成長した結果と願いです。成長期著しい乳幼

児期に与えられた重責は、私と園児と親を大きく成長させてくれます。よか！よか！と園児等の屈託のない熊本弁と天真爛漫の笑い声と笑い顔は私に安らぎと若さをくれます。給食室の香りと包丁の音、万歳！！



園長会

ないものはない

山東保育園 園長 村上 千幸

発展途上国、先進国等という表現がありますが、今の日本は発展過剰国というべきです。過剰な欲望から生まれる過剰な便利さ、快適さは子ども達の将来を暗くするものだと思います。

保育園でも「あれがあったらな～」「もう少し～になればいいな～」などと思ったり言ったりすることがたびたびあります。「子ども達が自然環境の中で自由に遊べるような所があったらいいな。」「保育園にもフリーに保育を補助してくれる保育者がいてくれたらいいな。」「家庭でもう少し～していただけたらいいな。」などなど尽きることはありません。

しかし、「ないものはない」のです。どんなに望んでも出てくることはありません。ある種の諦観と共にあきらめるしかありません。

しかし、実際には子ども達は育ち、保育をして、家庭も営まれていきます。そこでは「ないものはない」という日々の満ち足りた生活に対する感謝と満足がなければなりません。



「ないもの」が「ない」ということは全てがあると言い換えることができるのです。

あなたの「ないものはない」はどちらですか？

7月の予定

会合	担当年齢	日	時間	会場	研修内容
年齢別・実技研修会	0、1歳児	16(金)	14:00～17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	2歳児	21(水)	14:00～17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	3歳児	8(木)	14:00～17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	4、5歳児	13(火)	14:00～17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	実技研修	27(火)	14:00～17:00	国際交流会館	子どもと楽しむおもちゃ作り (対象：幼児) 講師：子ども文化会館 大津山 琢氏
新任職員保育士研修会		9(金)	14:00～17:00	熊本市国際交流会館 4F 第3会議室	
理事会		13(火)	14:00～17:00	熊本市国際交流会館 3F 国際会議室	
園長会		22(木)	14:00～17:00	崇城大学市民ホール 大会議室	

ご結婚おめでとうございます

- 城南慈光保育園 4月29日 保育士 中岡ゆかり (旧姓 永田)
- 熊本藤富保育園 6月12日 保育士 田野邊 沙矢香 (旧姓 掘江)
- 本妙寺保育園 7月18日 保育士 木崎 歩 (旧姓 浦崎)
- つぼみ保育園 7月18日 保育士 野口 恵美 (旧姓 古堀)
- 上ノ郷保育園 8月1日 保育士 西浦 弥生 (旧姓 和田)
- つぼみ保育園 8月28日 保育士 牧本 由希 (旧姓 西)

平成22年度 保育研究大会

平成22年 5月22日(土) 於 熊本テルサ



表彰を受けられた先生方、ご苦労様でした。益々のご活躍を！



重岡理事長挨拶



熱心に質問されておられる
ひまわり保育園の保護者

光を浴びて大合唱♪

講演会

演題 「新政権による保育制度のゆくえを検証する」
～これからどうなる日本の保育・子育て～

講師 保育園を考える親の会
代表 普光院 亜紀

